

NEWSLETTER

No. 51

2 April 2012

・教室をめぐる動き	・ ・ ・ ・ 1
・2012年度地理学教室行事予定	・ ・ ・ ・ 1
・活躍する卒業生紹介(2)	・ ・ ・ ・ 2
・地理実習室および地理情報処理室(世田谷10号館)の利用について	・ ・ ・ ・ 5
・地理学教室・購入図書資料リスト(2011年度)	・ ・ ・ ・ 6
・地理学教室・購入主要備品リスト(2011年度)	・ ・ ・ ・ 7
・PDF化して保存される卒業論文(2011年度)	・ ・ ・ ・ 7
・2012年3月卒業生の進路・就職先	・ ・ ・ ・ 8
・就職体験談	・ ・ ・ ・ 9
・就職活動について	・ ・ ・ 11
・2011年度国土館地理学会冬季巡検報告	・ ・ ・ 12
・2011年度における教員の研究活動	・ ・ ・ 14

【教室をめぐる動き】

2012年度を迎えるにあたり、次のような先生方の動きがあります。

<非常勤講師の退任>

谷口智雅 先生 「日本の水環境」「海洋と陸水の科学」などを担当

<非常勤講師の新任>

大八木英夫 先生 「日本の水環境」「海洋と陸水の科学」などを担当

<昇格>

加藤幸治 先生 教授に

宮地忠幸 先生 准教授に

<文学部教務主任に>

岡島 建 先生

今年度の専攻主任・学年担任・大学院幹事は、以下の各先生です。

専攻主任	内田順文	1年担任	加藤幸治	2年担任	磯谷達宏
		3年担任	長谷川均	4年担任	宮地忠幸
大学院幹事	長谷川均				

【2012年度 地理学教室行事予定】

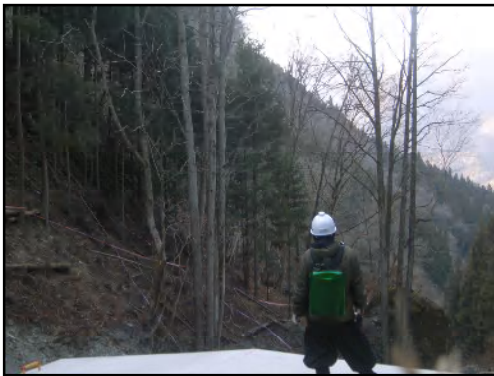
4月 2日～10日	全学年オリエンテーション期間
5月 14日・15日	地理学野外実習A(1年生地理野外実習)
6月 9日	国土館大学地理学会
10月 3日・4日	地理学野外実習B(2年生地理野外実習)
10月 22日～25日	地理学野外実習C(3年生地理野外実習)
12月 10日	卒業論文提出 締切(15:00)
12月 22日	国土館大学地理学会
2月 6日～8日	卒業論文公開口頭試験

【活躍する卒業生紹介（2）】

群馬県神流川森林組合 池澤鉄平さん

2004年3月卒業の池澤です。現在は群馬県の森林組合で働いております。学生時代は地理学教室では影が薄く、全く目立たない存在だったと思われ（当時、お世話になった諸先生方の記憶の片隅に残っていることを願っていますが・・・）。私は、入学以前から大学院へ進学することを考えていましたので、4年次には就職活動を一切行っていません。しかし、大学院進学へ踏み出す一歩もなかなか踏み出せないままに、結局、岡島建先生へ告白した時には「そういうことは早く言いなさい！」と控えめなお説教を頂いた記憶があります。その後、専門を絞り、茨城大学大学院、東京学芸大学大学院を受験、合格し、卒業後は、茨城大学大学院へ進学しました。

院生時代の前半は、例えるならば、現代の若きウェルテルのような状態に陥りましたが、同じ院生室の仲間にも救われ、後半は不死鳥の如く蘇り、「今年度中に果たして彼の修士論文は完成するのか？（いや、無理だろう）」という師事していた先生の絶望感を尻目に、残った期間、睡眠時間以外は机に向かい、コーヒーと動物ビスケットを友として、ほとんどの時間を研究に費やしました（今振り返ると、こういう時間は日常では得られない充実感で満たされていたと思えます）。修了後は、当時の専門領域の延長上ということもあり、関東を離れ、岡山県の会社に就職し、歴史史料全般のデジタル化業務、レプリカ作成業務、GIS用空撮データの作成業務に約2年間携わりました。GIS用空撮データは、全て手動補正により空撮のラップがシームレス（継ぎ目が無い）且つ、空撮上のすべての画像が実測図に同定された geotif データでした。その後、思うところがあり、一念発起し会社を辞め、群馬県の神流川森林組合に転職しました（現在3年目です）。現在の業務は、境界確定事業や森林作業道の設計（土木工事）、林野庁のすすめる施業集約化事業（集約化プランナー）、新規就労に関する業務、最近では市町村の森林整備計画策定等にも関わっています。なかでも、境界確定事業は国庫の補助事業で森林境界明確化事業という事業があり、組合内でチームを組み（3名）、字限図、旧公図などを素図として、GPS、GIS、デジタルコンパスを駆使し、立会・測量・製図化しています。この3年間で750ha程実測図を作成しました。



Pic.1 現場に出る際は鉋、スパイク付地下足袋、寅巻七分、ヘルメット、GPS（ヘルメット頭頂部にアンテナ）、PDAは必需品。



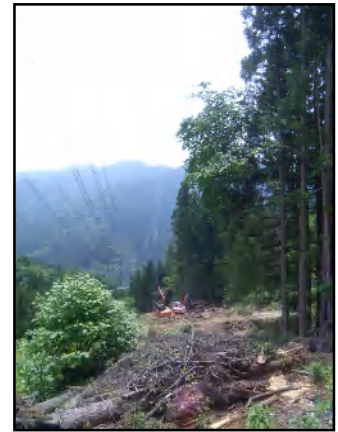
Pic.2 たまたま現場で伐倒させてもらった時の写真。転職後、幸運だったのは一級の現場技術者に会い、職員としてこままで育ててもらったこと。林業系フィールドワーカーの最終形態は、地域と現場を正しく理解し、行動・実践することのできる技術者だと思っています。



Pic.3（左）・Pic.4（右）
森林測量用のデジタルコンパス。導入・実用までは苦勞しましたが、この三年でGPS、コンパス、PDA等の測量機器については、組合の所有規模が県内一となりました。



Pic.5 GISにデータを集積した実測図の一部 (150ha, 事業の成果品)。高齢化, 若年層の流出, 過疎化が進む管内において, 森林境界の明確化は急務です。資源管理のファーストステップは資源を資源として正しく「把握・周知」することに尽きます。



Pic.6 (左)・Pic7 (右)

昨今の林業は機械化が進み, 作業工程の連続性を「作業システム」と呼び, 路網と重機を利用した作業システムを車両系作業システム, 架線集材を中心とした工程を架線系作業システムと区分するようになりました。最近では昔の林業従事者が経験や勘で行ってきた業を, 理論化, 数値化していく傾向にあります。しかし, 昔も今も変わらないのは, 人の手とその知恵により, 森林整備がなされてきたということです。林業が抗う相手が自然であるならば, 常に持つべきは一本一本の樹木に対する畏怖と, その1本1本を植えた人間に対する責任だと今は思います。



Pic.8 この間伐された森林を見てどう感じるでしょうか。対象の施業地(森林)に対して, どのような森林整備が適切なのか, 景観的に美しいのか, そこに絶対的な正しさはないのだと思います。時には, 実践には裏付け(学術的な見解等)が必要になりますが, 結果は常にそれが「正しい」とも限りません。美に対しては人の捉え方はそれぞれです。だからこそ, その「正しさ」について思考錯誤し追及することを続けていくことが, 林業技術者にとって大事なのではないかと思っています。



Pic.9 管内の山中には, 洞窟や滝などの修験者の修行場がいくつか遺されています。写真は「入沢の滝」。



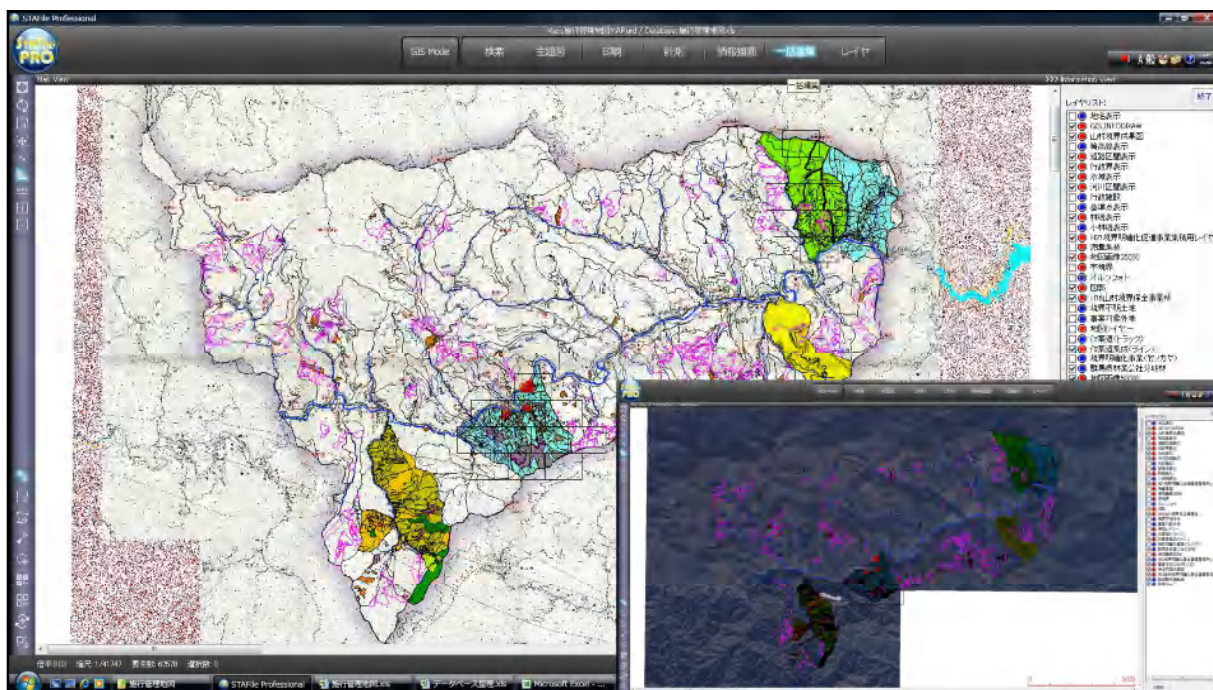
Pic.10 時折, ハッとするような風景に出会います。都会に居れば都市的な造形美, 山に居れば自然の雄大な無形美。良くも悪くも人間はどこにいても何も変わらないものだと感じる時です。

学部生時代, 1年次~2年次に聴講した自然地理学にカテゴライズされる講義の数々, 磯谷先生に師事した蓼科巡検, 3年次から院生時代まで専門とした絵図学(古地図学), その研究の過程で運よく出会ったGIS(地理情報システム)※, 岡山県で培った画像作成技術(特にGISに投影する精密なラスタデータの手法)等が, 現在の業務に非常に役立っています。最近, 森林組合での採用に際し, 面接官を担うことが多々ありますが, まず決まって質問するのが「あなたが何をきて, これからどこへ向かうのか」という問いです。その人の志向性を理解するところから始めています。これは, 自分自身「得るために失ったものがたくさんあるのだから, せめて, 得てきたものには自信を持ち, 無駄にしたくない」という思いがあります。先の転職は, 「これからどこへ向かうのか?」という自問自答の結果によるもので, どこへ向かうのかは, 「今まで得てきたものたち」が自然と指し示してくれました(あとはそれらについて自信を持って社会にアピールするだけです)。さて, 話を面接に戻すと, 「あなたが何をきて」の答えは大抵答えてくれます

が、「これからどこへ向かうのか」についてはなかなか難しいようです。就労から3年後、5年後、10年後～到底適わぬ夢まで、自身の可能性・ポテンシャルをアピールできる人材は少ないのが現状です。「確固たる目的があり本当に欲しいものを、犠牲を払いながら遮二無二得てきた者」、「何となく得てきたものから、何となく目的を見出す者」、この両者では先の質問に対する答えは雲泥の差があるでしょう。現在の地理学教室は自分が在籍していた時よりも、より専門性・実学性が高く、社会に通用する実践的な技術者（研究職や専門職）の育成・輩出に力を入れているように思えます。過去から未来まであらゆる空間における現象と事物を探求できる地理学教室において、皆さんは、何を得て、何を捨て、どこへ向かうのか、この教室を出る時はたった一人のフィールドワーカーです。迷うこと無く歩み、一人一人があらゆる空間において社会の礎となる素晴らしい人材となることを願っています。

【思い出・思い出深いもの】

1. 緑の世界史（上・下）：退任された長島先生の人文地理学概説の夏季レポート課題図書。勿論、試験は答案用紙の裏まで書くのが常識。
2. 生物地理学のノート・地形学のノート・ジオパル：超高密度にまとめられたレジュメとノートは院試対策において、コンビニの夜勤の友でした（朝まで念仏のようにひたすら唱えました）。今でも読み返します。永久保存版です。
3. 内田先生の一年次の巡検レポート：研究とは何かを問われる最初の難関。一回でパスした時には小躍りしました。
4. 磯谷先生の蓼科巡検：もう二度と山には行かないと思いましたが、今、気がつけば山の中で仕事をしています。現場で唐松を見るとあのペンションの夕飯を思い出します。
5. 岡島先生の静岡巡検：絵図との出会い。兎に角必死にコピーしました。話はそれからだと。
6. 岡島先生の小言：進学したい旨告白した際「早く言ってくれば、それなりの指導ができたのに」という言葉に、大学や先生達のことを酷く誤解していたことに気がつきました。1年次から自ら心を開いていれば、もっと多くのことを得られたでしょう。



Pic.11 この3年で数種類のGISソフトウェアを導入してもらいました。価格も数万円～数十万円と様々ですが、特定のソフトウェアを利用することに拘りません。目的に応じて取捨選択し、役割や機能を補完して本来の目的を達成します。また、その過程で課題や応用的な利用方法が生まれていきます。個々のソフトで何ができるのかを幅広く知ることも重要ですが、そのソフトを活用して何がしたいのかを大切にしないと、ソフトウェアに「本来の目的」を制限されてしまうこともあります。学生時代は色々なソフトに触れてみるとよいでしょう。写真は組合職員（GIS初心者向け）に導入したSTAFILE Pro（データベースがEXCELベースとなっています）。

【地理実習室および地理情報処理室（世田谷 10 号館）の利用について】

（※ よく読むこと）

1. 世田谷 10 号館 2 階（10201）に地理・環境専攻の学生のための地理実習室があります。地理実習室は、学生の学習用に利用できます。利用法をよく読んで、積極的に活用して下さい。

利用時間と利用方法

毎日 9：00～18：00（原則）

- ・利用希望者は 5 号館文学部事務室で、カギの貸出簿に、必要事項を記入の上、カギを受け取る。解錠後は所定のカギ掛け（マップケースそば）にカギを掛けておくこと。カギを借り出した者は、退室時には必ず施錠し、カギを文学部事務室に返却すること。
 - ・退出時に他の学生がいて継続して利用したい場合は、あらためてカギを借り出すこと。カギの又貸しは、原則禁止します。
 - ・教員が在室している時は、事務室でカギを借りなくても、自由に入室できます。ただし、教員が退室する場合は、在室者・利用希望者が事務室からあらためてカギを借り出すこと。
 - ・**地理実習室は飲食禁止**です。整理整頓を心掛け、**ゴミ等は廊下にあるゴミ箱に分別して捨てて下さい**。
 - ・地理実習室は学習・研究のためのスペースですので、**携帯電話も使用禁止**です。通話・利用等は玄関か屋外でして下さい。
2. 実習室には地理学に関する基本的図書（多くは貸出も可。貸出方法は下記参照）、地理学関連の辞典もあります。復習・レポート作成時に役立ちます。以前、本地理学教室の教員であった大崎晃先生、日本地理学会元会長・東京大学名誉教授の吉川虎雄先生のご遺族より寄贈いただいた地理学及び関連分野の図書等も配架してあります。こちらも有効に利用して下さい。
国勢調査、事業所統計、工業統計、商業統計、農業センサスなど主要な統計（南関東の諸都県のものを中心）、道路統計年報、港湾統計年報、特定サービス産業実態調査報告書など図書館にない資料もあります。人文地理関係の科目で有効に活用できます。地理学の専門学術雑誌として、地理学評論（数年分）、経済地理学年報（約 20 年分）もあり、最新号が発行されるごとに配架されます。
統計類、雑誌類および辞書類の貸出は禁止です。統計・雑誌の一次持ち出し（コピー）は、教員の許可があればできます。
 3. 実習室内には地理・環境関係図書、地理・環境専攻学生専用の端末（PC）とプリンタ、スキャナ等が設置されています。これも学習用に利用できます。情報科学センターの講習を受けた学生に限り、インターネット、メール、その他のソフト（オフィス系）を使用することができます。利用上の注意は、情報科学センターの端末と同様です（**学習に関係ないネット閲覧、ゲーム等は禁止**です）。なお、GIS やリモートセンシング関連のソフトもインストールされているので、宿題や課題などもこれらの PC で行うことができます。
 4. 情報実習室は、学校荒らし・空き巣常習者などに狙われやすく、盗難のおそれがあるので、室内にモノを置いたまま外出しないようにして下さい。
なお、地理実習室内には防犯を目的として 2 台のネットワークカメラが設置されています。このカメラで撮影された動画は、地理情報処理室にあるネットワークハードディスクに保管されています。防犯と危機管理の面からもカメラの設置は必要ですので、理解と協力をお願いします。
 5. 地理実習室の向かいにある地理情報処理室は基本的に研究向けスペースとなります。特殊なソフト・機器等を利用するためのスペースと考えて下さい。使用については教員と相談して下さい（同級生が在室・作業等していても、通常利用の学生は地理実習室の方を利用して下さい）。

実習室の図書の閲覧および貸出方法（※ 必ず読んで、ルールを熟知すること）

- ▼ 研究室備品の地図・空中写真・製図道具等は、実習室内でのみ閲覧・利用して下さい。
- ▼ 利用する人は（教員も含めて）、見たり借りたりした本を必ず元の位置に戻すようにして下さい（図書は分野別に配架されています。おおよその位置は借り出す際、覚えておいて下さい）。多くの学生・教員が利用します。実習室に図書・資料を放置することなどないよう、注意しましょう。
- ▼ 貸出は、「図書貸出簿」（雑誌ラックに置いてある青色の B4 ファイル）に、書名・住所・氏名など必要事項を記入の後、教員のチェックを受け、サインをもらって下さい。
- ▼ 返却も、必ず教員のチェックを受け、「図書貸出簿」にサインをもらって、各自責任を持って所定の書架（置いてあった場所）に戻して下さい。
- ▼ 3・4 年生はできるだけゼミの先生からチェックを受けて下さい。
- ▼ 貸し出し期限は 2 週間です。厳守して下さい。
- ▼ 以上を守らず、無断持ち出した者、貸し出し期限を守らない者には、相応のペナルティが課されます。

【地理学教室・購入図書資料リスト（2011年度）】

※ 書名と出版社名のみ

※ 教室で購入したものは他にもあります。以下は一例にすぎません。

自分の興味に近いような本がありませんか？ 基本的に地理実習室に置いてありますので、まずは手にとって内容をみてみましょう。貸出できる本も多いので、興味ある本は借りてじっくり読んでみましょう。

【全集等】

- | | | | |
|-------------------------------|-------------|---------------------------------------|-------------|
| ○ 北海道（日本の地誌3） | 朝倉書店 | ○ リスの生態学 | 東京大学出版会 |
| ○ サバンナ（世界自然環境大百科3） | 朝倉書店 | ○ 巨大地震・巨大津波ー東日本大震災をもたらした地震と津波に迫るー | 朝倉書店 |
| ○ 測量用語辞典 | 東洋書店 | ○ 地図投影法 | 朝倉書店 |
| ○ 日本災害史事典 1868-2009 | 日外アソシエーツ編集部 | ○ サング礁学 | 東海大学出版会 |
| ○ 自然災害と防災の事典 | 丸善出版 | ○ 日本列島の自然誌 | 東海大学出版会 |
| ○ 原色木材大事典 170種 | 誠文堂新光社 | ○ 地形探検図鑑ー大地のようすを調べようー（子供の科学サイエンスブックス） | 誠文堂新光社 |
| ○ 理科年表平成24年机上版 | 丸善出版 | ○ 原色木材大事典 170種 | 誠文堂新光社 |
| ○ 日本の居場所がよくわかる東アジア地図帳 | 草思社 | ○ 地震・噴火災害全史ーシリーズ災害・事故史〈2〉 | 日外アソシエーツ編集部 |
| ○ 2005年農林業センサス農業集落カード（26都道府県） | 農林統計協会 | ○ 台風・気象災害全史ーシリーズ災害・事故史〈3〉 | 日外アソシエーツ編集部 |

【自然地理学関係】

- | | | | |
|--|---------|--------------------------------|-----------------|
| ○ 日本の天然ダムと対応策 | 古今書院 | ○ 古代日本の気候と人びと | 学生社 |
| ○ 地下水と水循環の科学 | 古今書院 | ○ 森林生態学（シリーズ現代の生態学8） | 共立出版 |
| ○ 災害軽減と土地利用 | 古今書院 | ○ パンタナールー南米大湿原の豊穡と脆弱ー | 青海社 |
| ○ 東日本大震災津波詳細地図（上） | 古今書院 | ○ シカと日本の森林 | 築地書館 |
| ○ 東日本大震災津波詳細地図（下） | 古今書院 | ○ チェルノブイリの森ー事故後20年の自然誌ー | 日本放送出版の協会 |
| ○ フィールドワーカーのためのGPS・GIS入門 | 古今書院 | ○ みんなが知りたい地図の疑問50 | ソフトバンククリエイティブ |
| ○ GISと地理空間情報ーArcGIS10とダウンロードデータの活用 | 古今書院 | ○ 地図の科学 | ソフトバンククリエイティブ |
| ○ 図解ArcGISー身近な事例で学ぼうー | 古今書院 | ○ ArcGIS Desktop 逆引きガイド | ESRI ジャパン |
| ○ 図解ArcGIS Part2ーGIS実践に向けてのステップアップー | 古今書院 | ○ 凹凸を楽しむ | 東京「スリパチ」地形散歩洋泉社 |
| ○ 図解ArcGIS Part3ージオデータベース入門ー | 古今書院 | ○ 開発と防災ー江戸から東京の災害と土地の成り立ち | イマジジン出版 |
| ○ フリーGISソフト MANDARA パーフェクトマスター | 古今書院 | ○ 「春の小川」はなぜ消えたかー渋谷川にみる都市河川の歴史ー | 之潮 |
| ○ 東日本大震災の教訓ー津波から助かった人の話 | 古今書院 | ○ 日本のジオパーク | ナカニシヤ出版 |
| ○ アジアの都市と水環境 | 古今書院 | ○ 日本カヤツリグサ科植物図譜 | 平凡社 |
| ○ 地球学調査・解析の基礎 | 古今書院 | ○ 森の博物館原物標本ー日本人なら知っておきたい木30種 | オーク・ヴィレッジ |
| ○ 豪雨の災害情報学 | 古今書院 | ○ 野生動物と社会ー人間事象からの科学ー | 文永堂出版 |
| ○ 緑と地域計画II 緑被地と空間機能 | 古今書院 | | |
| ○ 哺乳類のフィールドサイン観察ガイド | 文一総合出版 | | |
| ○ 野と原の環境史（シリーズ日本列島の三万五千年ー人と自然の環境史2） | 文一総合出版 | | |
| ○ 里と林の環境史（シリーズ日本列島の三万五千年ー人と自然の環境史3） | 文一総合出版 | | |
| ○ 島と海と森の環境史（シリーズ日本列島の三万五千年ー人と自然の環境史4） | 文一総合出版 | | |
| ○ 山と森の環境史（シリーズ日本列島の三万五千年ー人と自然の環境史5） | 文一総合出版 | | |
| ○ 環境史をとらえる技法（シリーズ日本列島の三万五千年ー人と自然の環境史6） | 文一総合出版 | | |
| ○ イネ科ハンドブック | 文一総合出版 | | |
| ○ 氷河地形学 | 東京大学出版会 | | |
| ○ 日本のクマーヒグマとツキノワグマの生物学ー | 東京大学出版会 | | |

【人文地理学関係】

- | | |
|--------------------------|---------|
| ○ 現代日本の地域研究 | 古今書院 |
| ○ 東南アジアの大都市圏 | 古今書院 |
| ○ 日本の都市地理学50年 | 古今書院 |
| ○ 観光文化と地元学 | 古今書院 |
| ○ 自然環境と農業・農民ーその調和と克服の社会史 | 古今書院 |
| ○ 観光学と景観 | 古今書院 |
| ○ 図説名古屋圏 | 古今書院 |
| ○ 地域と人口からみる日本の姿 | 古今書院 |
| ○ 富山・砺波散村の変貌と地理学者 | ナカニシヤ出版 |
| ○ 京都の歴史GIS | ナカニシヤ出版 |

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| ○ 観光研究レファレンスデータベースー日本編ー
ナカニシヤ出版 | ○ L R T
成山堂書店 |
| ○ 政治・空間・場所ー「政治の地理学」にむけてー
ナカニシヤ出版 | ○ Excel ではじめる社会調査データ分析 丸善出版 |
| ○ 地図で見る世界の女性 明石書店 | ○ 地球全史写真が語る 46 億年の奇跡 岩波書店 |
| ○ NGO・NPOの地理学 明石書店 | ○ 地理情報システムによる公共交通の分析 多賀出版 |
| ○ 地域開発と村落景観の歴史的展開ー多摩川中流域を中心にー 思文閣出版 | ○ 20 世紀環境史 名古屋大学出版会 |
| ○ 中世村落の景観と生活ー関東平野東部を中心としてー 思文閣出版 | ○ 埼玉鉄道物語 日本経済評論社 |
| ○ 焼畑の環境学ーいま焼畑とはー 思文閣出版 | ○ 鉄道路線廃止と代替バス 東京堂出版 |
| ○ 60 プロジェクトによむ日本の都市づくり 朝倉書店 | ○ 都市農村交流と学校教育 農林統計出版 |
| ○ 空間の文化地理 (シリーズ人文地理学 7) 朝倉書店 | ○ 戦後日本における柑橘産地の展開と再編 農林統計協会 |
| ○ 進展する交通ターミナル 成山堂書店 | ○ フードシステムの空間構造論 筑波書房 |
| ○ 移住・移民の世界地図 丸善出版 | ○ 江戸の寺社めぐり 吉川弘文館 |
| | ○ 宮本常一とあるいた昭和の日本 (全 25 巻の一部) 農文協 |

【地理学教室・購入主要備品リスト (2011 年度)】

- | | |
|--|-------------------|
| ○ GIS ソフト「ArcView SU 教育基本」
12 ライセンス | ○ 学生用パソコン一式 4 セット |
| ○ GIS ソフト「地図太郎」 10 ライセンス | ○ 放射線測定器 3 台 |
| ○ ひまわり受信装置一式 (更新) | ○ デジタル一眼レフカメラ一式 |
| ○ ハイビジョンプラズマディスプレイ (気象情報用) | ○ 粒度分析用ステンレスふるい一式 |
| | ○ 逆目盛検測棹 (15m) |
| | ○ 自動水温計 3 個 など. |

* 地理学教室の備品・電子データ資料等は教員の指導のもと、学生も使用することができます。

【PDF 化して保存される卒業論文 (2011 年度)】

・地理学教室では、1986 年度から 2010 年度までに提出された卒業論文のうち、451 編を優秀卒業論文として保存しており、そのリストは地理学教室ホームページに掲載されています。今年度の卒業論文のうち、優秀卒業論文として保存されるのは、下の 15 論文です。

2000 年度以降の優秀卒業論文はホームページから閲覧することができ、下の論文もそこに含まれます。ただし、印刷はできません。

閲覧にはパスワード等が必要になります。これに関しては講義やゼミの際に、地理学教室専任教員から聞いて下さい。不明な点があれば、担当の長谷川 (hasegawa@kokushikan.ac.jp) まで問い合わせてください。

・2012 年 3 月 19 日 (月) の全国地理学専攻学生卒業論文発表大会 (「卒論の甲子園」ともいわれる各大学の優秀卒業論文の発表会：日本地理教育学会主催) には、緑川達也 (野口ゼミ)、門田和也 (加藤ゼミ) の両君が選ばれ、発表しました。

氏名	表題	所属ゼミ
佐京 峻太	近年における家電量販店の立地展開	加藤ゼミ
王 偉	最近 50 年間における日本と中国の都市気温上昇について	野口ゼミ
押切せかい	足立区における地域イメージとその背景	内田ゼミ
永井麻由佳	長野県鉢伏山における構造土の分布について	長谷川ゼミ
門田 和也	埼玉県中央地域における銭湯とスーパー銭湯の共存	加藤ゼミ

結城 正浩	新潟県長岡市における中心市街地の変容と活性化事業の展開	加藤ゼミ
梁 国響	賑わいのある商店街の現状—新小岩駅前ルミエール商店街の事例—	加藤ゼミ
方波見佳央	スダジイ (<i>Castanopsis sieboldii</i>) の海岸部から内陸部にかけての成長の違い —茨城県鉾田市周辺を例として—	磯谷ゼミ
山本 正樹	気温分布における東京の地域代表性	野口ゼミ
赤松 未来	新聞折込におけるエリアマーケティング—地理学的方法で考察する—	加藤ゼミ
季 彦	東京 23 区における外国語案内標記の現状と課題 —鉄道駅の案内標記を対象として—	内田ゼミ
緑川 達也	東京大都市圏におけるヒートアイランド強度 —特に方位による違いについて—	野口ゼミ
都野守貴裕	地方公共鉄道の存続へ向けた沿線地域社会の取り組みとその有効性 —真岡鐵道を事例として—	宮地ゼミ
関根 悟	水稻作産地における農業生産法人の経営特性 —新潟県新潟市白根地区を事例に—	宮地ゼミ
佐々木正幸	近代における鬼怒川水運の展開 —水海道河岸を中心に—	岡島ゼミ

【2012年3月卒業生の進路・就職先】

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ■ 船橋市役所 (一般事務) | ■ 株式会社 読売情報開発 |
| ■ 滋賀県警 | ■ トヨタカローラ南茨城 (株) |
| ■ 茨城県警 | ■ (株) 三ツ和 (外食) |
| ■ (株) 安田 (水道管販売) | ■ (株) ティー・ワイ・オー (広告代理店) |
| ■ イルカ交通 (高速バス) | ■ 国土緑化 (株) (緑化・造園) |
| ■ 青山會 | ■ 東京シティ青果株式会社 |
| ■ 新潟県並行在来線株式会社 (運輸職) | ■ 東京荏原青果株式会社 |
| ■ 株式会社極楽湯 | ■ ヨドバシカメラ |
| ■ 株式会社アイダ設計 | ■ 株式会社キンレイ (外食) |
| ■ ベネッセスタイルケア (介護福祉業) | ■ 株式会社三経フードサービス (外食) |
| ■ 株式会社アイスコ (食品商社) | ■ カルチャーパブリケーション (印刷・出版) |

※ ただし、2月初旬時点で教室に、業種だけでなく企業名等も含めた報告のあった分のみ。

【就職体験談】

以上の就職先に内定を得た学生のうち、何人かに就職体験談を寄せてもらいました。質問内容は次の通りです。次の1~12の質問内容に対する回答を掲載しています。

- | | | | | |
|--------------------------|-------------------------|--------------|-------|---------------------|
| 1. 氏名 | 2. 内定企業名 | 3. 業種 | 4. 職種 | 5. その企業を選んだきっかけは何か？ |
| 6. 内定までの流れ (時期と選考内容) | 7. やっておいてよかったこと、 | 8. 面接で聞かれたこと | | |
| 9. 失敗談・うまくいかなかったこと | 10. この企業に就職することを決めた理由は？ | | | |
| 11. 面接が不合格だった後に努力や工夫したこと | 12. 後輩へのメッセージ (アドバイス) | | | |

1. 草野将之
2. 滋賀県警察 (1 類)
3. 公務員
4. 公安職
5. 人のために貢献したい。また、やりがいがあるため。

6. 5月9日に一次試験（筆記，論文），5月27日に一次試験の可否発表，6月7日に二次試験前段（身体測定，体力測定，適性検査など），9日に二次試験後段（口述試験で集団討論，個別面接）
7. 筆記面では特に論文対策，数的処理と判断推理を重点的にやったこと．体力面では，トレーニングを日常的に行っていたこと．
8. なぜ警察官になりたいのか？集団生活は慣れているか？警察学校で仲間と意見が別れた場合どのような対応をするか？高校，大学で部活動はやっていたか？また何部か？試験をうけるまで，どんな生活をしてきたのか？試験を受けるにあたってどんな努力をしてきたか？など
9. 特になし．
10. 幼い頃からの夢であったため，ほぼ警察官の試験しか受けていません（2社ほど面接に慣れるために受けたが）
11. 公務員試験以外に2社受けたが，面接の雰囲気慣れるためとはいえ，とても緊張してしまい上手く話すことができなかつた．日頃から先生と話すときなどは正しい言葉遣いや，できるだけ簡潔にわかりやすく話す努力をして，癖付けをした．
12. とても厳しい社会となってきました．大卒の内定率も低いのが現状です．しかし，自分のなりたい将来像が描けていたら必ず自然とそれに向かって努力し，内定を得ることができると思います．私は，警察官以外は考えていなかったのも，もし今年がダメだったとしても来年受けるつもりでした．1つに絞ることによって不安を感じ，内定を得リスクは高くなると思いがちですが，私は逆だと思います．数をこなす就活ではなく，自分に自信をもって，絞って効率のいい就活にしてほしいと思います．

1. 藤田征成
2. 国土緑化
3. サービス業
4. 営業
5. 自然に関わる仕事がしたかったため．面接官(社員)と息が合ったこと．
6. 一次選考をかねた説明会→集団面接→二次面接→最終面接→内定通知（6月頃）
7. 面接の雰囲気に慣れるために面接の練習
8. 会社に入って何をしたいか．人に負けない自信があるか．彼女はいるか．やっていたバイトについて
9. 履歴書に書くようなマニュアル的な言葉を面接でも話したら「ありのまま話さない」と怒られたこと．自分の持味をわからずに選考に進み，通らなかつたこと．
10. やりたい事が出来ると感じたこと．社員とのフィーリングがあつたこと．
11. どうしたら入社したいという気持ちが伝わるか考えた．
12. 長い間仕事をするうえで，自分は本当に何がしたいのかを考えてほしいです．また面接の際には，見栄をはらず，ありのままの気持ちと言葉で挑んでほしいです．

1. 結城正浩
2. 新潟県並行在来線株式会社（正式な社名は公募しており6月に発表になります）
3. 運輸（鉄道）
4. 鉄道現業
5. 以前から憧れていた仕事であり，たまたま地元のニュースで採用を知り，運命を感じ応募しました．
6. 10月中旬 書類選考
下旬 筆記試験
11月上旬 適性検査，身体検査，個人面接
下旬 内々定
7. 業種を早めに絞つたことで，集中できた点．新聞や雑誌などでその業界にまつわる記事を細かくチェックすることで知識が広がつた点．目覚ましをとりあえず3つ設置していたこと．
8. 大学で何を学びどう生かせるか，並行在来線についての知識，どのような鉄道員になりたいか，入社した後の将来像 など
9. 震災の影響で選考が遅れ，気持ちを保つのが大変だった．目覚まし時計の電池が外れたらしく，寝坊し危うく遅刻しそうになったこと．東京だと結構歩くので，靴が思った以上に汚れる．面接官は，しっかり足元を見ているので，綺麗に手入れすることを忘れずに．
10. 2年後の2014年に本格開業ということで，自分たちが1期生になるというところに誇りと責任感が持てる点．地元新潟に貢献できる点．2年後の開業に向け，社内に活気が溢れている点．
11. 暗記したことを話そうとすると，余計に緊張してしまい忘れてしまったときにパニックるので，自然体でいられるよう有りのままの自分で，なんとかなるさと自分に言い聞かせリラックスして臨みました．

12. 諦めずに努力すれば必ずと結果はついてくるものだと僕は思います。夢や目標に向かって“今”を夢中になればきっと大丈夫。
1. 齋藤亜莉沙
 2. 榊三経フードサービス
 3. 飲食業
 4. 未定
 5. 『食』に関わる仕事がしたいと考えていて、食を扱う業種の中でも飲食業を受けていました。いくつか内定をいただいた中でこの企業を選んだ理由は、企業の考え、社長の考え、人事の方の考え（姿勢）に共感したからです。面接を受けていて『楽しい』という気持ちになり、選考も前向きに、積極的に取り組めたからです。
 6. 6月～8月前半 ①企業個別セミナー(グループワーク)
②人事面接(3人で集団面接), 筆記試験
③人事面接(個人面接), 筆記試験
④社長面接(個人面接)
 7. 毎回、大学のキャリア支援センターで履歴書やESの添削や、面接練習をしていただいたこと。
 8. 志望動機(3回の面接で毎回聞かれました。), なぜこの業界を選んだか、大学時代に頑張ったこと、自分の長所、短所 など…
 9. 就職活動を始めて、最初の頃はESが本当に通らなくて苦労しました。文章で他人に自分のことを伝えることに苦労しました。それから、私は器用ではないので、就活と卒論を同時平行で進めることができなかつたことが失敗談です。
 10. 質問5と同じ。
 11. 切り替えが大切。多くの企業がある中で、自分と縁の無い企業があるのは当たり前です。不合格だった企業にこだわっても、入社してから自分が大変な思いをするだけだと思うので、私はすぐに切り替えてどんどん新しい企業を探して、前向きに就職活動をしてきました。選考で自分の精一杯が出せたなら、反省する必要は無いと思います。一生懸命やっていたら、絶対に自分に合う企業が見つかるはずですよ。
 12. 努力あるのみ!!!精一杯努力して、不合格だったらすぐ切り替え!!それから、どんな時でも芯を持ってマイペースに就活をすること。頑張ってください(^^)☆皆さんの就職活動に協力できる機会があれば協力します。
-
1. 八島理佳
 2. 木曾路株式会社
 3. 小売業
 4. 接客
 5. 元からアルバイトで接客をしていて興味があり、木曾路の和の接客にふれ自分も働いてみたいと思いました。
 6. 10月上旬 筆記試験、書類選考→10月上旬 筆記試験→10月上旬 食事会→10月中旬 食事会→10月中旬 最終面接 ※会社の方と、食事を一緒にするだけで選考結果が決まるという厳しい選考でした。
 7. 早めに就職活動を始めたこと。3年生の夏からインターンシップを行っていました。長期で大変でしたが、自分の適性もわかり、好きな仕事に就くことができました。
 8. 「職場は人間関係がたいへんですが、好きな仕事のために仕事を続けられますか。」
「あなたはスポーツをやっていましたか。」
「就職活動で辛かったこと、楽しかったことはなんですか。」
 9. 最終面接には何社も行くけど受からない。業種や職種を変えるなど、方向転換をしました。
 10. 尊敬できる役員の方、接客のトレーナーや人事の方に出会えたこと。好きな仕事だから。女性が活躍できる職場だから。
 11. キャリアセンターの先生や、専攻の先生に相談することで、自分が何がいけなかったか教えていただいた。そして、それを行動にうつしました。
 12. 就職活動は今、本当に厳しくなっています。しかし、たくさん行動して就職活動を楽しんでやってほしいです。そして、行き詰まったり、うまくいかない事があつたりしたら大学の先生やキャリアセンターに相談して、大人の意見を参考にして下さい。

1. 関根 悟
2. 東京シティ青果株式会社
3. 卸売業・小売業（証券コード協議会における業種区分）
4. 青果物及び加工品の受託販売並びに、購入販売
5. 私は、ゼミで学んだ農業地理学を活かせる企業であると感じ、選んだ。
6. 全体の流れ
 2010年12月：就活情報サイト主催のイベント（リクナビ、マイナビ）
 2011年1月：企業説明会（青果卸，コンサル業界）
 2月：企業説明会&面接試験（青果卸，コンサル業界）
 3月：企業説明会&面接試験（2次，3次，最終試験）

東京シティ青果の選考日程

- 2011年 1月：企業説明会，早朝見学会
 2月：企業セミナー，筆記試験（1次）
 3月：面接試験（2次，最終）

※1企業につき多くて6～7回訪問

7. 新聞を購読することは，社会状況を把握するために有効であった。
8. 志望動機，学生時代に打ち込んだこと，関心があること，新聞を読む際，どこから読み始めるか など
9. 面接時に聞かれそうな事を事前に考えていたが，想定外の質問をされた。
10. ゼミで学んだ農業地理学を活かせる企業であると感じたため。また，少しでも日本農業を支える仕事に就きたいと考え，当社を選んだ。
11. とにかく自分を客観的に見つめなおし，自己分析を改めて行った。あとはあまり気にせず，縁がなかったなどと考え，次にすぐ切り替えた。
12. 自ら創りあげた人と人との繋がり（コネクション）は，自分自身の財産であり，最大の武器ともなる。人と話して，話して，話して，自分の信念を深めて就職活動を乗り切ってください。

【就職活動について】

就職体験談を踏まえ，文学部の就職指導委員である加藤先生に少し就職活動等について意見をもらいました。

就職活動は大変厳しいものになっています。就職体験談を寄せてくれた学生の例は「成功例」であり，何人かが書いてくれているように，その「成功」の影には多くの「失敗」もありますし，また残念ながら，2月までには教室に企業名等を含めた報告をできない人も少なくありません。こうした厳しい状況の中で，自力だけで「成功」というのは難しいと言わざるを得ません。

「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」（徒然草 第52段）。

就職ということを真剣に考えるのであれば，「先達」となるキャリア形成支援センターを利用しましょう。これは就職体験談にも書かれているとおりです。

もちろん，就職ということが，人生や大学卒業時の目標である必要はありません。「お金」のためだけに働くというのも本末転倒です。だからといって，「何もしない」で生きていくというのでは，「人間」としての尊厳にも関わります。

「あなたは，どこで・誰と・何をして・何のために・どのように生きていきたいと思いませんか？」

急に何を言い出すのだろう，という人もいると思いますが，こうしたことを考え，実現していく上での「先達」となるのも，キャリア形成支援センターです。キャリア形成支援センターはいわゆる「就職課」でもありますが，それだけが役割ではありません。

あなたのキャリア形成のためにも，そして多くの人にとっては就職のためにも，キャリア形成支援センターからの案内や掲示に注意を払い，就職活動の「成功」，ひいては「人間」としての「成功」に向けて進んでいってほしい，と思っています。

（加藤幸治）

【2011年度 国士館地理学会冬季巡検報告】

この度の巡検は、2012年2月14日（火）から16日（木）にかけて2泊3日で行われました。参加者は学生4名（3年生2名，2年生1名，1年生1名），引率教員2名（加藤准教授，宮地講師）の計6名でした。巡検の対象地域は、岐阜県高山市と岐阜県白川村（白川郷），富山県南砺市（五箇山）で、これらの地域における『伝統的景観への理解』を本巡検の目的としました。

2012年2月14日 高山市内巡検

私たちが最初に訪れたのは、飛騨高山の古い町並みです。高山市三町地区・下二之町地区は、伝統的な商家町の景観を残す地区として重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。ここでは、町並み保存のために行われてきた修景事業により、リメイクされた家屋が多くみられました。また、街の中には町並みを連想させるような色・形状にアレンジされた建造物（コンビニエンスストア，高山信用金庫など）や自動販売機もみうけられ、随所に町並み保存への工夫をみることができました。ところで、近年、伝統的景観を観光資源として評価し、保存しようとする取り組みが多くみられます。これらは観光産業を拡大させ経済基盤の構築を企図するものです。高山市も例外ではなく、リメイクされた町並みやアレンジされた建造物からそれがよみとられます。他方、このような取り組みをおこなう地域においては、しばしば、ありのままの伝統的景観を保存しようとする動きと観光地として利益を追求しようとするものとの間にトレードオフの関係がみられます。つまり、伝統的景観の商品化にあたり、それらを加工することは半ば当然のように行われており、そのたびに真の伝統的景観は失われてきているということです。文化財保護の観点から、このような方法は果たして正解といえるのか、この点において私は疑問を抱きました。

つぎに、高山陣屋跡に向かいました。高山陣屋は江戸幕府が飛騨国を直轄領として管理するために設置した役所です。完全なかたちで復元されている陣屋は全国でも高山陣屋のみということで、陣屋の中の間取りや展示されている書物を興味深くみることができました。（文責：上原悠輔）

2012年2月15日 白川郷・五箇山巡検

これらの地域（庄川水系）では「合掌造り」という建築方法がみられ、豪雪を乗り切るための工夫をみることが出来ます。たとえば、農作業ができない冬季の間には、高い床下を利用した「塩硝」の製造・和紙の製造・繭の生産がおこなわれていました。とくに塩硝は火薬の原料となっていたそうです。そして、かつての白川郷の名主は、この塩硝の生産と繭の生産を中心に行っていたそうです。

さて、高山市内に1泊した私たちは、8時に宿舎を出発して「宮川朝市」を見学しに行きました（図1参照）。朝市では、高山陣屋前と宮川沿いの2か所で開かれており、私たちが見学した朝市は江戸時代から続いています。当日は天候が悪かった+朝早かったのもあり、観光ガイドに紹介されているような活気はありませんでした。しかし、名物である「赤カブラ漬物」「朴葉味噌」などは販売していました。そして8時50分に高山駅バスターミナルから路線バスを利用して、白川郷へ向かいました。車中では私たち日本人のほか、アジア・東南アジア系の観光客も乗車していました。1時間ほど乗車して10時に「合掌造り民家園」に到着（図2参照）し、積雪量2mほどの白川郷と五箇山相倉集落での巡検は始まりました。

15日は、まず「合掌造り民家園」に到着し、荻町の合掌造り集落を概観したあと、路線バスにて富山県五箇山に向かいました。相倉集落の歴史は古く、縄文時代には人が生活していたそうです。この地域独自の文化が発達し、方言や慣習など、東京で生活している私たちには驚かされることばかりでした。そして、集落内では除雪車が絶えず除雪作業をおこなっていました。相倉集落は積雪量が3mほどであり、除雪をしなければ生活することはできません。世界遺産に登録されたにもかかわらず、路線バスは1日4本、約3時間間隔でしか運航しておらず、白川郷と比較してアクセス面は不便なものがありました。13時48分発の相倉集落から1日4本しか運航していない貴重なバスに乗車し、一行は白川郷へと戻りました。

15時ごろに白川郷へ到着した一行ですが、先ほど述べた、かつての名主であった「和田家」を見学しに行きました。この合掌造りは3階建てであり、1階が居住スペース、2階が中二階という、物置的なスペースがありました。そして3階は主に養蚕をおこなうスペースとなっていました。（文責：志村衛）

2012年2月16日 白川郷巡検

朝食に岐阜県高山周辺の特産品である朴葉味噌を食べ、「白川郷展望台」に合掌造りの全景を観察しに行きました（図2，写真1）。積雪のため観光バスを利用しました。9時発のバスに乗車したのですが、観光客はあまり見られず、私たちと中国系の観光客2組で展望台へ移動しました。展望台では某テレビ局の撮影が行われており、芸人を見ることができました。興奮していた私たちですが、国士館地理学会の「巡検」ですので（笑）、9時30分には荻町集落へ戻り、自由行動となりました。合掌造りとその景観+観光客の動向を観察し、伝統的景観への理解を深めるため、集落内を散策しました。白川郷の集落内すべてが合掌造り、というわけではなく、ところどころに現代版合掌造り（茅葺ではなくトタン屋根）と思われる住居をみることができました。合掌造りの最大の特徴である茅葺の屋根は30-50年に一度、張り替えなければいけません。そ

れには膨大な費用・人手がかかるため、「結（ゆい）」といわれる集落内の無償の共同作業をおこなっていました。しかし、現在は写真にもあるように、業者によって作業をおこなう家庭もあるようです。

このように白川郷・相倉で学んだことは、①観光客が増加していく中での観光客のモラルの問題、②相倉の世界的観光地としてのアクセス性の問題、③地域住民の生活の実態でした。そして何より、地理学の醍醐味である「実際に現地に行く」ことによって理解できることが数多くあるのだ、ということをおぼることができました。

(文責：志村衛)

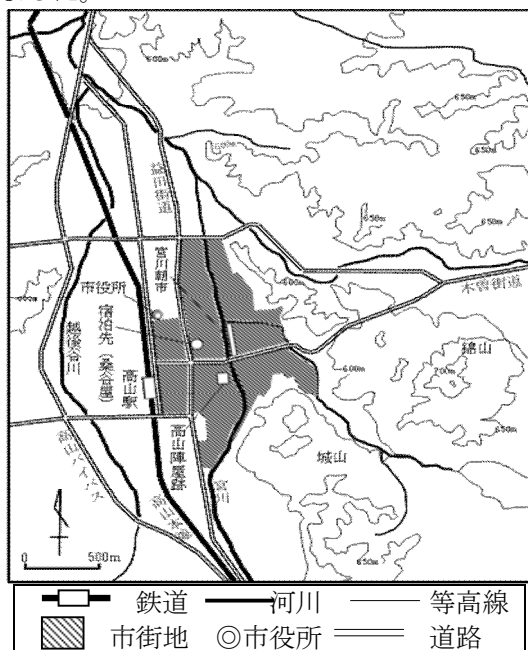


図 2.高山周辺概観図

(2万5千分の1「高山」より作成)

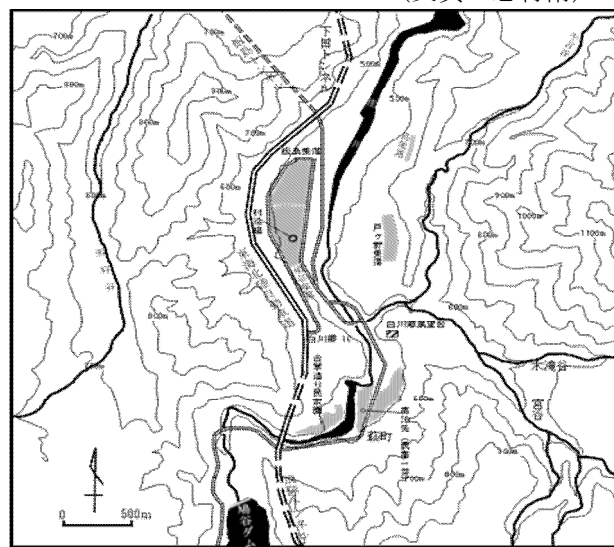


図 3.白川周辺概観図

(2万5千分の1「鳩谷」より作成)



写真 1.白川郷の全景 2012.2.16 志村撮影



写真 2.合掌造りの雪下ろし作業 2012.2.15 志村撮影



写真 3.巡検の概要説明 宮地先生撮影



写真 4.高山三町地区における町屋の風景 宮地先生撮影

写真 3.4 は国士館大学地理・環境専攻HP「No.311」より転載。 閲覧日時 2012.3.28.

http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/HPphoto/20120216_高山白川/newpage2.html

【2011年度における教員の研究活動】

野口 泰生 教授

学会発表：

- ・野口泰生（2012）：中信高原霧ヶ峰の南風．2012年度日本地理学会春季学術大会，2012年3月29日，首都大学東京．

長谷川 均 教授

論文：

- ・鈴木倫太郎・長谷川均・前川 聡・佐川鉄平・柴田 剛・市川清士・後藤慶之（2011）：
石垣島白保サンゴ礁におけるアオサンゴ群集の分布と形成過程に関する考察．駒沢地理，第47号，pp.49-56.
- ・鈴木倫太郎・前川聡・佐川鉄平・柴田剛・市川清士・後藤慶之・長谷川均（2011）：
石垣島白保サンゴ礁における白化現象の分布と水温の関係．地域学研究，第24号，pp.27-40.
- ・東郷正美・長谷川均・石山達也・岡田真介・竹内えり・牛木久雄（2011）：ヨルダン・ハラット．
法政大学多摩研究報告，第26号，pp.1-4.
- ・（社）日本地理学会 企画専門委員会（2011）：実務地理関係者の活動実態とその社会貢献のあり方に関する調査研究．E-journal GEO, Vol.6, No.1, pp.38-71.（分担執筆）

学会発表：

- ・石原光則・波利井佐紀・茅根創・本郷宙軌・長谷川均・山野博哉（2011）：衛星画像によるサンゴ群集被度変化の検出．日本地球惑星科学連合2011年大会，2011年5月24日，幕張メッセ国際会議場．
- ・鈴木倫太郎・長谷川均・前川聡・佐川鉄平・柴田剛・市川清士・後藤慶之（2011）：サンゴ礁浅海域における保全を目的とした地図の作成．日本国際地図学会平成23年度定期大会，2011年8月8日，国士舘大学．
- ・大森一人・渡邊剛・長谷川均・石原光則・山野博哉（2011）：石垣島轟川流域に生息するハマサンゴ骨格に記録された土地利用変遷の復元の可能性．第14回日本サンゴ礁学会，2011年11月4日，沖縄県那覇市「沖縄県男女共同参画センター ているる」．
- ・山崎敦子・渡邊剛・宮地鼓・角皆潤・長谷川均・山野博哉（2011）：造礁性サンゴ骨格の窒素同位体比から復元する石垣島白保サンゴ礁の陸起源硝酸負荷の変遷．第14回日本サンゴ礁学会，2011年11月4日，沖縄県那覇市「沖縄県男女共同参画センター ているる」
- ・石原光則・波利井佐紀・茅根創・本郷宙軌・長谷川均・山野博哉（2011）：衛星画像を用いた長期的なサンゴ礁の底質分類の精度評価．第14回日本サンゴ礁学会，2011年11月4日，沖縄県那覇市「沖縄県男女共同参画センター ているる」
- ・長谷川均（2012）：UAVを使った環境変化の10年計測．法政大学地理学会，2012年03月03日，法政大学．

その他（書評）：

- ・長谷川均（2012）：今谷明ほか監修『日本の居場所がよくわかる東アジア地図帳』草思社発行，地理2012年3月号，121ページ．
- ・破壊のシナリオ 辺野古アセス評価書の波紋（15），琉球新報，2012年01月25日付（取材を受けコメントが掲載）．

学会活動、社会活動：

- ・日本地理学会 代議員
- ・日本地理学会 資格専門委員会委員
- ・日本地理学会 GIS学術士資格委員会委員
- ・WWF 震災復興プロジェクト 検討委員
- ・「世田谷の地下に潜る」世田谷芸術百華2011世田谷バスツアー街はミュージアム（5）講師、2011年10月22日．

- ・「松川浦と周辺地域の景観変化」WWF 震災復興プロジェクト現地報告会，2012年3月27日，相馬市コミュニティセンター。

外部研究資金の獲得

- ・平成23年度（2011年度）私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）高解像度空中写真撮影装置，事業経費：8,169,000円。

内田 順文 教授

論文：

- ・内田順文・池田雄斗（2011）：2010年度海外巡検（国際大学交流セミナー「中国遼寧省・河北省の都市と文化遺産」）に関する報告．国土館大学地理学報告，No.19，pp.49-59.
- ・内田順文（2012）：国土館大学文学部における「FDに関する教員アンケート」の結果と分析．国土館人文学，第2号，pp.165-176.

その他（記事・講演）：

- ・内田順文（2011）：静寂で懐かしい『反都会の趣』．東京新聞サンデー版特集『日本の小京都』，p.8，2011年9月4日。
- ・内田順文（2012）：旅と風景4～旅の方法と風景の鑑賞法～．三鷹市市民大学事業「武蔵野の意味を探る会」，2012年1月28日，三鷹市社会教育会館。

岡島 建 教授

論文：

- ・岡島 建（2012）：明治期の河川交通政策に関する歴史地理学的考察．国土館人文学，第2号，pp.51-65.

その他（書評）：

- ・岡島 建（2011）：増田廣實著『近代移行期の交通と運輸』．日本歴史，756，pp.129-130.

学会活動：

- ・歴史地理学会 評議員

磯谷 達宏 教授

学会活動：

- ・日本地理学会 集会専門委員
- ・日本生態学会 和文誌編集委員

その他：

- ・国立歴史民俗博物館共同研究員、展示プロジェクト委員

加藤 幸治 准教授

論文：

- ・加藤幸治（2011）：サービス消費機会の地域的格差．経済地理学年報，57-4，pp.277-294.
- ・加藤幸治（2012）：立地係数分析からみた現在の日本における地域構造の特徴－「農工業県」に関する分析を中心として－．国土館大学地理学報告，20，pp.1-19.

学会発表：

- ・加藤幸治：サービス消費機会の地域的格差．経済地理学会第58回大会，2011年5月21日，国土館大学。
- ・加藤幸治：「日本の産業地図・2005」再考．日本地理学会2011年秋季学術大会 産業経済の地理学研究グループ，2011年9月24日，大分大学。

学会活動：

- ・日本地理学会 地理学評論編集専門委員
- ・地理科学学会 評議員

その他：

- ・加藤幸治（2011）：サービス消費機会の地域的格差. 『経済地理学会第 58 回大会報告要旨集』, pp.4-14.

宮地 忠幸 講師

論文：

- ・高柳長直・宮地忠幸・両角政彦・今野絵奈（2011）：北イタリア・トレヴィーゾにおける地理的表示制度による野菜産地の形成. 農村研究, 第 113 号, pp.66-79.

学会発表：

- ・宮地忠幸（2011）：大学生による農業体験学習の社会的意義に関する一考察—福島県二本松市西谷集落での取り組みを事例として—. 日本地理教育学会第 61 回大会, 2011 年 8 月 21 日, 秋田大学.

学会活動：

- ・経済地理学会 評議員, 総務委員長（常任幹事）
- ・日本地理学会 代議員, 集会専門委員

その他：

- ・日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会 認証判定委員
- ・全国商工会連合会 小規模事業者新事業全国展開支援事業予備審査委員
- ・東京農業大学大学院農学研究科学位論文審査委員
- ・めぐろシティカレッジ講座「健全な環境と不健全な環境を診る・知る・学ぶ」講師
担当講座：日本における有機農業の実態と問題点（第 14 回：2011 年 11 月 26 日）
現地見学 東京における安全安心な食料生産の現場をあるく・みる（第 16 回：2011 年 12 月 24 日, 菊地俊夫氏と共同）

※ 教員在室時間表は、時間割調整等が終了した後（5 月 10 日前後）に、Newsletter vol.52 として配布しますので、しばしお待ち下さい。